

# 里守屋三匹獅子

文化振興課 ☎(94)2152

市には、各時代の歴史と人々の営みを物語る数多くの文化財が残され、地域の人々の努力によって大切に受け継がれています。今月では、地域で取り組む文化財保護活動の一つとして、里守屋三匹獅子保存会の活動を紹介します。

## 四〇〇年以上続く 五穀豊穡と無病息災を 祈り舞い踊る

里守屋地区に伝わる伝統芸能で、地区の五穀豊穡、無病息災などを祈り、毎年7月の第4土曜日とその翌日に行われます。かつては旧暦6月16日と17日に行われていました。その歴史は古く、江戸時代まで遡り、地元では慶長5年(1600)、行業僧都が京都から帰郷する際に持ち帰った



上山寺観音堂で奉納される里守屋三匹獅子

との説が伝えられています。三匹獅子は「獅子っこ」と呼ばれる太郎獅子、次郎獅子、女獅子の三匹からなり、それに、唄い手、笛、太鼓がつきます。

このうち「獅子っこ」は16歳になる人が担当し、いないときは、16歳になる人が出るまで受け持ちます。さらしの半纏にたすきを掛け、しまの猿袴、黒の足袋

## 地域文化を後世に 伝えるために

古くから、里守屋地区の人々によって受け継がれてきた三匹獅子は、昭和48年に市(旧岩瀬村)の無形民俗文化財に指定されました。三匹獅子を守るため、16歳以上の男性により里守屋三匹獅子講中が組織され、平成17年には、これを母体に保存会が結成されました。主に、毎年7月の本番に向けた練習を通して、伝承活動を行っています。練習は、旧暦の6月1日(ムケの朔日)から始め、旧暦の

草履を着用。腰には幣束を差し、腹には太鼓を付け、両手にばちを持ちます。獅子舞は、土曜日の夜、上山寺観音堂で奉納され、日曜日に、地区内の全戸を回り、舞い踊ります。観音堂では、太郎獅子と次郎獅子が女獅子を奪い合い、最後には三匹仲良くなる様子を3種類の舞で表現し、その間に、伝承されている歌が10曲入ります。



笛や太鼓に合わせて舞い踊る「獅子っこ」。左から、次郎獅子、女獅子、太郎獅子

## 消防団員を募集

# 地域を守るため、 あなたの力が必要です。

生活課 ☎(88)9133



昨年10月に発生した台風第19号災害では、浸水被害に遭った住家の片付けを行うなど、被災者の生活再建の大きな力となりました

## 地域防災の要

消防団員は、自分の仕事をもちながら、火災や風水害などが発生した時に、それぞれの地域で、消火活動や救援活動などに当たっています。団員は、市内在住で18歳以

皆さんは、消防団を知っていますか?「自らの地域は自らを守る」という強い信念と郷土愛を持ち、地域を守るために日々活動に当たっています。



消火器の使い方を指導する女性団員

上の健康な人であれば、誰でも入団できます。入団のメリット  
▼消防技術や災害対応の知識が習得できる。  
▼日常生活における防火・防

災意識が高まる。  
▼異業種・世代間との交流ができる。  
▼地域とのつながりが深まる。

## 今こそあなたの力を

市では、消防団員を随時募集しています。自らの地域をあなたの力で支えるため、ぜひ入団をお待ちしています。また、地域のために、自分の時間を割いて活動している消防団員に対し、ご理解とご協力をお願いします。

## 団員インタビュー

### 災害の知識を深め、 地域に頼られる存在に

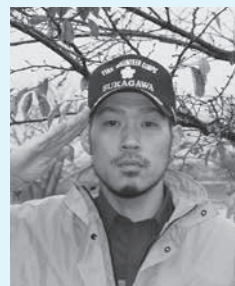
子育てが一段落したこともあり、地域貢献のために自分に何かできることはないかと考え、昨年7月に消防団に入りました。9月に開催された市防災訓練では、「初期消火訓練」を担当するため、事前に消防署で消火器の使い方などを訓練しました。当日は少し不安でしたが、参加者に分かりやすく説明することができました。



女性団員  
只野 つかさ さん

入団してから半年が過ぎ、自分自身の防災意識がより一層強くなりました。いつ何が起こるか分からない自然災害に対する備えの重要性など、生きる上でとても大事なことを日々学びながら、身の引き締まる思いで活動しています。昨年の台風第19号により、身近な方々が被災され心が痛みますが、これからも、先輩団員とともに様々な訓練や研修に参加し、災害に関する知識を深め、地域の方々から頼られる存在になれるよう、日々努力していきたいです。

### 分団の先頭に立ち、 市民の生命と財産を守る



第6分団 副分団長  
熊田 達也 さん

生まれ育った地域を守りたいという思いで入団し、18年間活動を続け、昨年4月に副分団長に昇任しました。これまでの活動で、一番印象に残っていることは、昨年、本市に極めて甚大な被害をもたらした台風第19号の水害対応です。刻々と変化する気象状況や河川水位が急激に上昇する中、団員の模範

になるよう冷静・迅速な行動を心掛けました。また、率先して避難広報や被害調査、道路冠水による排水作業などを行い、翌日からは、浸水被害に遭われた家を巡回し、災害ごみの撤去を手伝いました。今回の活動を通し、幹部としての立場を再認識するとともに、地域に密着している消防団の重要性を改めて感じました。今後も、分団の先頭に立ち、市民の生命と財産を守るとともに、各団員がやりがいを感じ、活動しやすい環境づくりに努めたいと思います。